

(様式2)

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1595400027		
法人名	有限会社 大輪		
事業所名	グループホーム 奥阿賀 大輪の里		
所在地	新潟県東蒲原郡阿賀町鹿瀬11603番地		
自己評価作成日	平成28年1月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム奥阿賀 大輪の里は、「角神温泉郷」の中の自然が豊かで四季折々の風景が身近に感じられる静かで安全な高台に立地しています。施設の周辺を散歩したり、植物を育てたりと優雅に過ごせる環境にあります。建物は木のぬくもりある造りで、お風呂は自慢の天然温泉でゆっくりと好きな時間に入浴することができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「角神温泉郷」に立地しており、四季折々の変化を感じられる自然豊かな環境の中で、利用者は毎日温泉での入浴を楽しんでいる。事業所の周囲には民家のごくわずかなため日常的な地域との関わりは困難だが、地域のイベントに出かけるなどして積極的に交流の機会を設けている。また、地域密着型事業所としての役割を担うべく他事業所や行政と連携して認知症に関する講演会を開催したり、職員研修の充実を行政に働きかけるなど、地域の福祉の向上に尽力している。

職員は、利用者にとって事業所が安心感のある居心地の良い居場所となるよう、利用者個々に合わせた言葉かけや関わりの工夫を行っている。事業所の外でのお茶飲みや散歩、季節によってふきのとう採りなどを行って事業所に閉じこもらない生活を支援している。冬季間は降雪量が多く外出もままならない状態であるが、事業所内での生活に少しでも変化があるように職員は意識して利用者の生活づくりを支援している。利用者の個性あふれる会話に、生活を共にする仲間としてのつながりを感じることができる。職員は、職員同士の間関係も大切にしながら、利用者にとって良い環境となるべくチームワーク作りに努めている。管理者の何事にも前向きに取り組む姿勢と行動力は気づきを実践につなげる力があり、今後も更なる前進が期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰にでも理解できる分かりやすい理念を作成した。日々のケアの中で理念を忘れない為に常に見える場所に掲示し、実践につなげている。	開設時に作成した理念をよりわかりやすい文言に変えて実践につなげている。毎月の職員会議や利用者との関わりを考える際には理念に立ち戻って振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に作品を出品したり、地域の行事等に参加し交流を深めている。近くの集落までは距離があるため、地域の方を呼び込む工夫が必要と考えている。	事業所周辺に民家が少なく日常的な地域との関わりは困難な立地条件だが、常に地域のイベントなどの情報収集を行って祭りや文化祭、写真展などに積極的に参加し、地域との交流を深めている。また、介護に関する相談会や認知症に関する講演会を企画して新聞広告で周知を図るなど、事業所を地域に理解してもらうよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	無料相談会や認知症についての講演会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の頻度で区長や地域包括センター職員から参加していただき、現状報告や活動報告を行い、助言や意見をいただいている。	会議には利用者や地区区長、ボランティア団体の代表、民生委員、地域包括支援センター職員等が参加しており、参加者からの意見や情報を事業所と地域とのつながりに活かしている。家族は県外など遠方在住が多いが、毎回会議の開催案内を送付し、面会に合わせて参加してもらうよう働きかけている。	会議録は事業所で閲覧できるようになっているが、会議に参加しない家族にも郵送することでより事業所への理解が深まるのではないだろうか。家族が意見を出しやすく、意見が運営に活かされることが伝わることで家族の会議への参加が増えることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の方には阿賀町の5事業所で構成する【地域密着型事業所協議会】の会議に参加してもらい、情報や助言等をえている。	町の健康福祉課の担当者とは日頃から電話やメールでやり取りしており、協力関係が築かれている。また、阿賀町の5事業所で構成する「地域密着型事業所協議会」の会議に担当者に参加してもらったり、協議会のメンバーが役場の会議に参加して要望を伝えている。町の協力により地域密着型事業所についての講演会を公民館で開催している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の想いを中心に据えた対応を心掛け、利用者の意に反する援助や助言をしないようにしている。夜間を除き玄関等の施錠もしておらず自由に出入りができる環境にある。	入職時や年1回の内部研修で身体拘束について学ぶ機会を設けている。職員の関わりの中から具体的にスピーチロック(言葉による行動制限)等をあげ、振り返りを行っている。職員間でお互いの言動で気になる箇所はその都度注意し合いながら、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は行ってはいけないことと全職員に周知し、細心の注意をはかっている。関連法についての学習については十分とはいえない。	入職時や内部研修で虐待について学ぶ機会を設けている。職員は、利用者との距離の持ち方や関わり方の工夫を試行錯誤することで虐待予防に努めている。また、職員間で対応を交替したり、協力し合うことでストレスの軽減や気分転換を図っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では成年後見制度を必要とされる利用者は居ないが制度を理解する為に学ぶ必要があると考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、管理者が利用者及びご家族に対し、契約書と重要事項説明書で詳細を説明し、理解・同意を得たうえで契約をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には事業所にいつでも来てもらえるよう働きかけている。来所時には利用者の近況報告を行い、意見や要望を聞き、反映された支援内容になるよう努めている。	家族には面会時や介護計画作成時に意見を聞いており、毎月送付する利用者の状況報告の手紙には、要望を記入する欄を設けている。利用者には日々の関わりの中で要望を確認するほか、家族の面会時に利用者が職員には言いにくい要望を聞いてもらうようお願いしている。食事量や空調の調節、テレビの視聴時間などの要望があり、対応を行った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常業務の中で職員からの意見・要望があった際には、職員会議で検討を行い反映させている。	職員は、年1回社長と管理者との三者面談があり、時間をかけて話し合いを行っている。職員は何かあれば管理者にその都度相談しており、また、毎日の申し送りや提案ノートの活用で事業所への要望や物品の購入などの意見が出され、運営に反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自らも現場に来て、職員から話を聞いたり様子を見て、環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格所得や技術向上へ向けての講習会に参加させてもらい、日々のケアに努めている。また、研修の希望があれば応じるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	阿賀町の5事業所で構成する協議会において他事業所と交流を図っている。他事業所の活動報告を聞いたり、助言をもらうことで関係を築きながらサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に慣れて頂くことを最重点とし、本人から不安事や心配事を伺い安心してご利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人の気持ちを把握するだけでなく、ご家族の希望や要望も把握し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所される際には、ご本人・ご家族とお話しするなかで、ニーズを把握し、適当なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者お一人お一人のこれまで行って来たこと今できることを見つけ支援している。日々の中で利用者に対する感謝の気持ちの声かけを行い直接伝え、一方的な立場にならないように関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用料等の請求書を送る際に利用者一人一人の生活の様子を記載した手紙を同封している。面会時や電話でも利用者の様子を伝え、家族と情報の共有を図るよう努めている。	家族とは、利用者が変わったことがあればすぐに連絡し、情報共有しながら協力関係を築いている。利用者の帰宅願望には、食事を共にするなど利用者の安心につながる対応をお願いしたり、遠方であっても利用者の思いに寄り添い、面会を増やしてもらうなど協力してもらっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の知人・親戚等の方も来所しやすい環境をつくり、隣接する施設に知人がおられる方は訪ね交流ができるように配慮している。	隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の利用者との行き来や、地域のイベントへの参加で馴染みの人との交流を支援している。病院や理容店、スーパーなどでも馴染みの人との出会いがあり、交流の場として活かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	部屋の閉じこもりを防ぐ為に、居室で過ごされる方には、定期的に声掛けを行い、負担にならない程度のホール誘導を行っている。ご利用者同士が協力し、支え合っている光景が見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が入院された時も、ご本人に面会に行ったり、ご家族と連絡を取り合い、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や会話などからご利用者の思いを把握したり、ご家族からも生活歴などの確認を行い、努めている。	利用者との日頃の会話や表情などから思いや意向の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日々の関わりだけでなく、ご家族にも聞き取りを行い、把握に努めている。	入居時の家族からの情報収集や利用者との会話から、これまでの暮らしについて把握している。利用者の自宅の近所の方からも利用者の特技などについて情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者お一人お一人のできることを把握し、それぞれ無理のない程度に、日々の活動の中にそれを取り入れ、ご本人の意思を尊重しながら、役割をもっていただく様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議にて職員の意見やアイデアを聞き、ご家族の意向を踏まえ、ケアプランの作成・見直しを行っている。	介護計画は利用者や家族の意向を取り入れて作成されており、日々の経過記録に介護計画と、具体的なサービス内容や実施の状況が記載されている。毎月担当職員が月間報告書をまとめ、それをもとに介護支援専門員が介護計画の変更や継続について検討している。	前回の外部評価の結果を受けて介護計画への取り組みを改善した。更に今後は、経過記録と月間報告書の連動やサービス担当者会議の位置付けを見直すことで、日々の取り組みがより介護計画に活かされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用いて、様子や職員からの気づき等を記録し情報を共有しながら介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、ご本人、ご家族の希望に対応した柔軟な支援や多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	集落が離れた場所にある為、近所付き合いは十分ではないが、できる限り出掛ける様に努めている。今後も様々な計画を立て、地域のつながりを支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人、ご家族と話し合い適切な受診ができるよう支援している。ご利用者に職員が付き添いをし、医師との連携を図っている。	阿賀町共通の受診シートで利用者の様子の報告や、医療機関からの診断や指示をやりとりできるしくみとなっている。遠方の家族が多いため受診の付き添いは職員が行っているが、家族には必要な連絡を行って情報を共有している。町の医療機関は事業所への理解があり、いつでも相談できる関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接施設の看護師に情報を提供し、看護師からの指示や助言をもとに、適切なサービスを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、定期的に面会に行きご本人の様子を直接見に行くだけでなく、病院関係者からも様子を聞き情報交換等しながら連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の対応範囲を説明している。ご利用者の状態変化が見られた時は、その都度ご本人、ご家族の意向を聞き、事業所としてのできる範囲以内で支援している。	常時医療を必要としない状態であれば事業所での生活は可能であるが、町が医師不足のため事業所での看取りは行えない状況である。入居時や状態変化があった際など折りに触れて利用者や家族の意向を確認しており、重度化や終末期の事業所の対応については家族の理解を得られている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所マニュアルに従い対応している。研修もしているがまだまだ十分とは言えない。実践力を身に付ける必要性が感じられる。	急変時には管理者への連絡や、救急車を要請して救急隊の指示を仰ぐといった対応の取り決めがあり実行されている。AEDの操作法や感染症対応の研修を行い急変時に備えている。事故発生後は対応を話し合い、改善につなげている。	初期対応や応急手当について具体的に学ぶ機会を継続的に設けることが望まれる。今後も研修を重ねることにより職員の実践力の向上を図り、利用者・家族の安心につなげることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員の協力を得ながら年2回の避難訓練を実施しており、職員は利用者の避難方法や緊急連絡方法などを体得している。しかし、地域との協力体制の構築までは至っていない。	年2回火災を想定した避難訓練を行っており、うち1回は消防署の立ち会いのもとで行っている。周辺に民家が少ないことから、緊急時には近隣の職員の駆けつけを想定して連絡方法等の確認を行っている。災害時には事業所が地域の拠点となることを視野に入れ、今後の取り組みについて検討している。	地震や水害など、災害によって避難行動にも違いがあるため、火災以外の災害を想定した訓練も行って避難方法等の確認をすることが望まれる。また、備蓄についても準備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切にし、さりげないケアを心掛け、本人が自己決定しやすい言葉掛けをするよう努めている。	利用者個々に合わせた言葉かけや場面に応じた臨機応変な対応で、利用者の気持ちに沿うよう努めており、利用者の自己決定を促し、自尊心を大切にしている。利用者への言葉かけで気にある点があれば職員同士で注意しあって意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で言葉だけでなく、表情等の非言語のものからも、思いを把握し、自己決定を促しているが、十分な表出に繋がらないことがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースに合わせ、意見を尊重しながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意見を聞きながら、衣類は決定している。髭剃りや、散髪など細かい面でも気を配りながら支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取入れメニューを考え、買い物には一緒に出かけ、食前の準備、食後の下膳等、本人ができる範囲以内で手伝っていただいている。イベントでは、特別メニューを考えたりと食での楽しみを支援している。	利用者の希望を取り入れて献立を作成している。ふきのとうや栗などその地域らしい食材を使用したり、行事食を提供するなどして食事の楽しみの幅を広げている。利用者には簡単な調理作業や後片付けで力を発揮してもらっている。また、家族の協力により外食の機会も得られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態に応じて刻み色や、粥食に対応し、摂取しやすいように支援している。水分補給は時間以外にもこまめに摂れるように気を遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の状態に応じ、ご本人でできる方は見守りや声掛けを行い、必要な方には介助にて、毎食後全員の口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、尿意のある方はできるだけトイレで排泄するよう促している。トイレへの誘導の際は、さりげない声掛けを行っている。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握しており、利用者個々の状態に合わせて声かけや誘導を行い、トイレでの気持ちのよい排泄につなげている。尿取りパット等の使用については利用者の状態変化に合わせて検討し、都度対応を変えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な水分摂取の声掛け、日中は出来る限り活動的にし、腸の動きを促せるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の状態や意見に合わせて入浴支援をしている。入浴時間は設定されているが、ご本人の入浴されたい時間になるべく合わせられるように努めている。	午後の時間帯を中心に利用者個々の希望する回数やタイミングになるべく応じられるよう工夫して支援している。現在、入浴を嫌がる利用者はおらず、利用者は事業所に引き込んだ温泉の入浴を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにソファを設置したり、冬期間には利用者が馴染みのあるこたつを用意し、くつろげるようにしている。就寝時間も個々の生活習慣に応じて安心して休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示に従い職員が配薬を行っており、服薬が確認できるまで見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に合わせて可能な限り洗濯物をたたんでもらったり、様々な場面で張り合いのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の状態や気候を見て、散歩へ出掛けたり、町内をドライブし景色や自然を楽しんでもらえるように支援している。これから外食なども視野に入れて計画ができるよう努めている。	地域のイベントやお花見、紅葉狩りなどで外出の機会を設けており、天候のよい時期は毎日外気浴の機会を設け、気分転換と昼夜逆転の解消に繋げている。また、知り合いの家にお茶飲みに出掛けるなど在宅時のつながりの継続を支援したり、家族の協力を得て、外食や遠方への外出も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に事業所で預かせてもらっているが、ご本人の希望によって使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用してもらい、家族や大切な方といつでも交流ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、季節感を出すため四季折々の草花や装飾を、ご利用者と職員で制作をし飾り掲示している。居心地の良い環境づくりを心掛け、こまめな掃除や環境整備を行っている。	季節の花や装飾で室内にいても季節を感じられるよう工夫している。安全に移動できるように利用者の動線に配慮して家具を配置しており、食事席についても利用者同士が落ち着いて過ごせるよう試行錯誤している。室温に留意し、毎日清掃も行って利用者が気持ちよく過ごせるように環境整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、ご利用者の好きなように過ごしてもらっているが、居室の閉じこもりを防ぐために、定期的に声掛けを行いホールへ誘導し他者と交流できる場を作っている。テーブルの位置も配慮し、配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までご本人が使っていたものを出来るだけ持参してもらい、居心地のいい空間づくりに努めている。	利用者の自宅での生活に近づけられるよう家族に私物の持ち込みを継続して働きかけている。利用者の機能低下に応じて家具等の配置を変えるなど、安全に過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで段差もなく歩行しやすく車イスでも可能な環境にある。手すりも設置されているので、安全・安心して生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				